

儲かる磯根漁業をめざした 経営改善に関する研究

(予算区分 県単独 研究期間 平成26～28年度)

担当：水産技術研究所 伊豆分場 山田博一

【研究の背景とねらい】

伊豆地域ではイセエビやアワビ、サザエ等の貝類、テングサなどの磯根資源を対象とした磯根漁業が行われており、その漁獲物は地元宿泊施設や土産として観光客へ提供されるなど、地域の観光産業に大きく貢献しています。しかし、磯根資源の漁獲量の減少や年変動、高齢化により、磯根資源に依存した漁業経営は安定していません。このため、磯根漁業の世代交代が可能となる収入が得られる仕組みを構築していく必要があります。本研究では伊豆の磯根資源を代表するテングサについて漁業の実態を把握するとともに、漁業経営の改善手法を提案します。

【これまでに行われた成果】

(平成26年度の成果)

テングサ漁業の実態の把握

- ・ 仁科と土肥では経営体数や漁獲量が多く、主要な生産地であり、依存度の高い地域と考えられました。
- ・ 全ての地域で少ないながらも若手漁業者が従事していました。
- ・ 漁獲量と入札金額を指標として、テングサの生産地を類型化したところ、3つに分類されました(図1)。

漁場改善手法の検討

- ・ 荒廃したテングサ場を回復させる手法を確立するため、テングサ以外の海藻を駆除し(写真1)その後の経過を観察しています。

【期待される成果】

- ・ 新たな漁業スタイルの定着により漁業収益が増大し、磯根漁業の再生とともに、若者の漁業への就業促進や磯根資源の安定供給が見込まれます。
- ・ 伊豆の磯根漁業の再生により、漁業生産額の増加とともに地域の活性化が期待されます。

【今後の計画】

- ・ 若手漁業者への意識調査を実施し、就業動機や就業に関する留意事項を明らかにして、新たなテングサ漁業の形態を検討します。
- ・ 類型化した分類A及びB(図1)においては下表のような改善策を調査・実行します。

分類A	方向性	入札金額が高く、漁獲が少ないことから、漁獲の増加を目指す。
	具体的方策	荒廃した漁場の改善、高齢化などによる操業者不足への対応
分類B	方向性	入札金額が低く、漁獲が多いことから、入札金額の上昇を目指す。
	具体的方策	価格形成要因の把握と改善策の検討

- ・ 漁場改善手法については、駆除の適期を検討します。

(作成 平成27年4月)

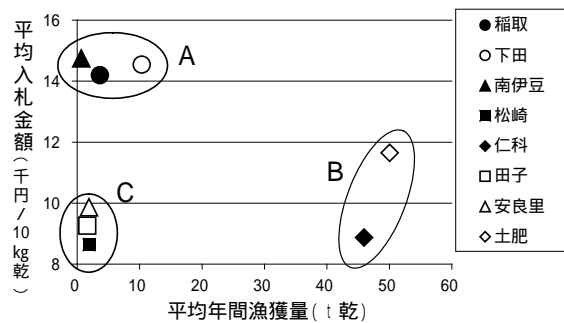


図1 各地域のテングサ漁獲量と入札金額の関係 (H21-25の平均)



写真1 潜水者による漁場改善調査